第２回与謝野町総合計画審議会 会議報告書

日　時　　令和４年７月５日（火）午後７時 30 分～午後９時 45 分

場　所　　元気館　農事研修室

出　席（敬称略）

谷口　知弘	辻村　謙一	木村　順一	糸井　恵美
関野　宅矢	塩野　浩士	太田　　豊	安達　幸三
濱田　祐太	中田麻由美	杉本　弘治	植田友香理
森垣　和哉	樋口　　潔	川邊　　真	細井　昭男
井上　　豊	長谷川　達	高岡　知子	井上　重子
市川　孝雄	茂龍　美夫	佐賀　義之	

事務局

企画財政課 小池課長	同 小谷主幹	同 井上係長	同 松本主任

傍聴者　　なし

«会議の要点»

- 第２次総合計画・前期基本計画について、「広報よさの６月号・７月号」特集記事により、主な取り組み内容や成果を共有
- 総合計画審議会主催により「よさのみらい会議」を開催することを確認
- 「わたしとまちづくり」をテーマにワークショップを実施する中で、よさのみらい会議のアイデア出しも実施

会議要旨　　以下のとおり

１．開会

○　小池課長の進行により会議を開会。

２．会長あいさつ

（谷口会長）みなさん、こんばんは。本日は全員参加ですごいなと驚いています。この地域の大きな力なのかなと思います。本日は、前期基本計画の報告、みらい会議に向けての作戦会議という内容。本格的な計画づくりに入っていくことになります。楽しく忌憚のない話し合いができることを期待しています。

3. 第１回会議の振り返り

○　事務局から、第１回会議の要点を説明。

４．議事

（１）第２次総合計画・前期基本計画について

○　事務局から、配布資料「広報よさの６月号・７月号」に基づき、前期基本計画に掲げた７つの分野の主な取り組みや成果を説明した後、質疑応答を実施。

＜質疑応答＞

・ ホップ栽培を開始した経過は。こういった事業は民間移譲して成功したと言えると思う。現状をお聞きしたい。

→　かねてから新しい農作物の栽培を模索している中で、ホップが栽培できそうだということで支援が始まった。ビールの原料となることから、一次産業だけでなく、二次産業、三次産業につなげられ、地域経済への波及効果を期待できるということで、産業振興の一環として、栽培の支援を始めた。現在は、他の事業者や農業者と同様、既存の補助制度の枠の中で後方支援・側面支援をしている。民間主体の取り組みとなっており、生産者、ビール製造メーカー、観光協会などが中心となって取り組みを進めておられる。

・ 自立した事業となるまでは支援を続ける必要もあるのでは。

→　ホップ栽培は立ち上げ支援を行ったもの。年々栽培面積も増え、販路も確保できてきた。次は町内でビール醸造所ということを期待しており、そういった際は、町や国の支援策を活用されることもあると思う。議会でも、行政がプレイヤーになることなく、民間プレイヤーが生まれる支援をするようにとのことであり、それに沿った支援をしてきている。

・ 自身は、地元に帰って事業を始めたいと考えていた時、与謝野町でホップ栽培が始まっていることを知り、町産ホップを使ったビール事業もしたいと思い起業した。起業して４年目となるが、町内外で 100 軒以上の取引先ができるまでになってきている。今年の秋くらいから自社工場を整備する計画。来夏には稼働させたい。

→　住民の皆さんも飲んで支援していくことができればいいなと思う。

・ 福祉事業従事者が 1,000 人近くいることに驚いた。生産年齢人口が約１万人なので、10 人に１人の計算となる。

→　福祉事業所が多いのは、初代町長が福祉のまちづくりに力を入れてきたことが影響している。特別養護老人ホーム、ショートステイ、訪問看護ステーション、障害者施設を複合させた全国的に見ても福祉施設があるが、これは町内の福祉事業所間の連携が図られ、官民で福祉のまちづくりを進めてきた成果である。

→　この地域は、本当に事業所の協力と連携がとれている。採算が取れなくても、地域にないサービスは事業者間で補完し合うなど、住民を福祉で支えていく事業者の心意気で福祉づくり、まちづくりが行われてきた。いち早く中学校までの医療費の無料化にも取り組んできた地域。与謝

野町の福祉は胸を張って自慢できるもの。一方、福祉事業者はたくさんあるが、人材不足は解消されていない。介護保険制度が始まり、少人数に対してヘルパーはたくさんいる。しかし給与が少ない。行政には人材育成の支援は続けてほしい。

・ 新産業の創出について、ホップ、桜プロジェクト以外に取り組まれたものあるのか。

→　町として支援したきたのは、シルクプロジェクト。桑から栽培し繭を育て、その糸で製品をつくろうというもので、現在は新たな法人が立ち上げり、民間事業として動いている。

・ 数字の良し悪しの判断がつきにくい。ふるさと納税など、今後の展望を聞けたらと思う。

→　比較対象があると判断してもらえるのだが、そこが欠けている資料となっている。ふるさと納税に関してはもっと増やす必要がある。税収を増やすだけでなく、与謝野町に関心を持ってもらうきっかけにしていきたい。本制度を活用した新たな仕組みづくりにも着手している。具体的には、住民主体のまちづくり、地域づくりの取り組みに、ふるさと納税を充てることができる仕組みづくりをつくろうとしている。

（2）よさのみらい会議について

○　事務局及び谷口会長から、「第 2 回会議説明スライド」にもとづき、企画内容や目的について説明を行った後、質疑応答を実施。

○　提案どおり、総合計画審議会主催で実施することを確認。

＜質疑応答＞

・ 当日の審議会委員の立ち位置を教えてほしい。オブザーバーかワークショップへの参加者か。

→　委員も参加してほしい。積極的に中に入って、一町民として対話に参加してほしい。傍聴いただくだけでもかまわない。

5．ワークショップ

○　4 班に分かれて、「わたしとまちづくり」をテーマにワークショップを実施。ファシリテーターは、有識者の谷口会長、辻村委員、事務局の小谷主幹、井上係長が務めた。

○　事務局から、本日のワークショップは、「まちづくり」という言葉の意味と、委員それぞれの活動内容を共有した上で、みらい会議への「参加のデザイン」（対象、参加の呼びかけ方、つながりや対話を盛り上げるアイデア）を考えることが目的である旨の説明を行った。

○　各班のワークショップ結果は別紙のとおり。

○　ワークショップ後、事務局から「第 2 回会議説明スライド」に基づき、様々な「まちづくりの定義」について紹介。

６．次回審議会について

○　日時：令和４年８月９日（火）午後７時 30 分

○　場所：岩滝保健センター

○　内容：まちづくりアンケート、後期基本計画重点戦略・骨子

7．副会長あいさつ

（佐賀副会長）本日も長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。ワークショップでは、各グループとも楽しみながら活発な意見が出ていたように見受けられました。このように、忌憚のない意見の出しやすい環境で、今後も審議会を進めていくことができれば、良い計画をつくりあげられると思います。

８．閉会

以上

第２回与謝野町総合計画審議会

2022.07.05 [TUE] 19:30-21:30 ｜ 元気館

与謝野町
YOSANO

本日のタイムテーブル

19:30-19:35	開会・会長あいさつ
19:35-19:45	第１回会議の振り返り
19:45-20:10	第２次総合計画・前期基本計画について
20:10-20:25	よさのみらい会議について
20:30-21:25	ワークショップ
21:25-21:28	次回審議会について
21:28-21:30	副会長あいさつ・閉会

3. 第1回会議の振り返り

第１回会議の概要

1. 正副会長選任（谷口会長、佐賀副会長）
2. 総合計画の概要と審議会の役割について確認
3. 第２次総合計画・後期基本計画策定方針を確認
4. 「まちの魅力」「このまちに暮らして感じる幸せ」をテーマにワークショップを実施

4-(1). 第２次総合計画
前期基本計画について

シリーズ みんなでつくる総合計画 vol.1

数字とキーワードで見るまちづくりの現在地。

「人・自然・伝統 与謝野で織りなす 新たな未来」。これは、みんなでつくりあげた第２次総合計画（平成30年度～令和８年度）に掲げるまちの未来像です。第２次総合計画は五合目にさしかかり、今年度は後期４年間の基本計画をつくる年になります。そこで、今月号から連載をスタートします。３つの「み」（みんな、みらい、みえる）を基本理念に、７つの分野別方針に基づき進めてきたさまざまな取り組み。今月号では、３つの分野について、数字とキーワードで振り返り、まちづくりの現在地を確認します。

＼ まずは５年前の住民のみなさんの願いや思いを振り返ります ／

特に力を入れるべき施策ランキング（平成 29 年まちづくりアンケート結果）

40 歳以上（584/687 件）

- 1 新たな産業起こしへの支援と雇用の確保 46.7%
- 2 災害に強い山や川づくりと防災体制の強化 37.6%
- 3 高齢者や障害者の福祉の充実と社会参画の推進 36.4%
- 4 道路網や鉄道・バスの充実 32.2%
- 5 住民、地域、事業者、行政の協働のまちづくり 31.9%
- 6 計画的な土地利用や住宅政策の推進 23.4%

15 歳～ 39 歳以下（103/687 件）

- 1 保育サービスや子育て支援の充実 48.5%
- 2 道路網や鉄道・バスの充実 46.6%
- 3 新たな産業起こしへの支援と雇用の確保 35.9%
- 4 高齢者や障害者の福祉の充実と社会参画の推進 33.0%
- 5 学校教育の充実 31.1%
- 6 災害に強い山や川づくりと防災体制の強化 30.1%

5年前のみなさんの声はまちづくりの原動力に。

与謝野町では、第２次総合計画を策定するにあたり、住民のみなさんの意向を計画に反映するため、平成29年にまちづくりアンケートを実施しました。15歳以上の町内在住者から２０００人を無作為に選び回答をお願いした結果、６８７件の回答が得られました。

「今後特に力を入れるべき施策」の設問では、30ある施策から最大５つまで選択可としたところ、40歳以上の世代では「新たな産業起こしへの支援と雇用の確保」が最多で、平成23年度の調査と比較すると「住民、地域、事業者、行政の協働のまちづくり」が大きく伸びました。

また、みらいのまちづくりを担う15～39歳の年齢層（若者世代）１０３件の回答傾向を把握するため、若者世代に絞りアンケート結果もまとめました。

上の表は、上位６つの回答をとりあげ、若者世代と40歳以上世代の回答内容を比較したものです。世代に応じた施策を講じる必要性が見て取れます。

５年前のみなさんの声がいかにまちづくりに反映されてきたのかー。分野別方針に沿って、数字とキーワードから読み取っていきたいと思います。

産業と仕事

｜分野１｜一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまち

企業立地促進条例

企業誘致・企業立地は、合併から平成29年度まで実績がありませんでした。そこで、平成30年度に企業立地促進条例の奨励措置に雇用奨励金を新たに設け、さらに令和２年度には雇用要件の緩和と制度の拡充を図りました。これにより、企業へのアプローチがしやすくなり、平成30年度から令和２年度までの３年間で、町外企業４社が町内に進出、町内企業１社が新工場を立地。町内在住者の新規雇用も24人にのぼり、地域経済の活性化と雇用の確保につながりました。また、５社のうち２社は織物関連企業で、丹後地域で育まれた織物技術を求め、進出が決まりました。

条例適用企業数 **5 社**

町内新規雇用者数 **24 人**

新産業創出

平成27年度から栽培を開始したホップは、平成30年から令和３年までの４年間で、約４トンが収穫され、水稲・施設園芸に次ぐ新規作物として認知を高めています。町産ホップを使ったクラフトビールメーカーが町内に誕生したほか、アクセサリーやチョコレート、コーヒー等の商品化、収穫体験「ホップレンジャー」など、ホップを基軸とした六次産業化・農商工連携が進んでいます。また、商業団体が新たな地域資源として桜の葉に着目。令和３年には法人を設立し、食用桜の栽培・加工に取り組み始めています。

ホップ収穫量 **4.0 t**

食用桜栽培面積 **88 a**

日本一の織物のまち

与謝野町は人口1,000人あたりの織物事業所数が全国で最も多く、名実ともに日本一の織物産地です。この地で培われた織物技術や産地を次世代につないでいくため、設備投資支援や機織り職人養成講座、産地滞在プログラムを実施したほか、若手織物事業者らが国内の繊維産地を訪ね自らの経営力・技術力強化をめざし研鑽（けんさん）を積んだ「ひらく織」など、多彩な取り組みを展開しています。

織物事業所数 人口1,000人あたり **20.2 事業所**

自然循環農業

与謝野町では有機質肥料の使用を促進し、化学肥料の使用を低減させる自然循環農業を推進してきました。その中核が町独自の有機質肥料「京の豆っこ」で、京の豆っこ米栽培面積は水稲作付面積の約18%まで広がっています。自然との共生を進める取り組みは、「第８回グッドライフアワード」（令和２年度・環境省主催）で特別賞を受賞するなど、各方面から高い評価を得ています。

京の豆っこ米栽培面積 **120 ha**

水稲作付面積 **680 ha**

交流と発信

｜分野２｜地元を誇りに想い、人の流れを生むまち

移住支援制度・移住相談窓口

移住者数

25世帯 **62**人

北部５市２町や国・府との連携事業等の合同移住定住相談会に与謝野町ブースを設置し、他府県からの移住希望者の相談機会を増やしたほか、空き家改修費用補助金や、新築・中古住宅を購入した子育て世帯の移住定住支援補助金、移住特区外の登録空家改修の補助制度等により、移住者数は平成30年度から令和３年度まで毎年増加傾向で推移。期間合計は25世帯62人で、令和３年度は12世帯34人で過去最高となりました。この流れをさらに進めるため、令和３年度から移住支援窓口業務を委託し、町が対応できない庁舎閉庁日に移住希望者等の受付対応ができる体制を構築。移住検討者・移住希望者・移住者のサポート体制の強化を図りました。

ふるさと納税

平成30年度から令和３年度までの４年間のふるさと納税額は、１億6,000万円を超えました。この間、令和２年度には個人を対象とするふるさと納税額が4,700万円超と年間の最高額を達成。令和３年度には企業版ふるさと納税の受入体制を整備するとともに、旧加悦鉄道車両の保存事業を対象としたクラウドファンディング型ふるさと納税も実施したことで、約1,200万円の寄付が得られ、ふるさと納税を通じて町に関心を寄せてもらうことができました。

ふるさと納税額

1.6億円

与謝野ファン化

平成30年度から令和３年度までの４年間の観光入込客数は、コロナ禍の影響を受け、平成29年度以前４年間と比較すると約43％減の１４２万人となりました。一方で、観光消費額は約22％減にとどまっており、これは「ファン化促進」をテーマに進める観光協会の取り組みの成果と言えます。この間、地域資源を活用した16の体験プログラムを造成。また、町においても旧加悦町役場庁舎、クアハウス岩滝、かや山の家の大規模改修を実施し、コロナ後を見据えた施設の充実を図りました。

観光入込客数

142万人

観光消費額

19.4億円

＼６月中旬発送／

2,000人

まちづくりアンケート

令和５年度から４年間の計画づくりに向けて、「まちづくりアンケート」を実施します。15歳以上の町内在住者から無作為に抽出した２０００人にアンケート用紙を発送します。お手元に届きましたら、アンケートへご協力ください。届かなかった方も、左記の二次元コードからアンケートに回答できます。みなさんの声をお寄せください。

アンケートフォーム

健康と福祉

｜分野３｜みんなが自分らしく幸せに生きるまち

人財育成・人財確保

保健・医療・福祉分野においては、人財不足の解消が大きな課題です。福祉分野では若い世代の職員の離職が目立っていることから、福祉事業所に就職した職員の介護福祉士資格取得を支援するため、研修費補助金を交付し、平成28年度から３年間で52人を支援。令和元年度には制度を改正し、介護福祉士修学資金貸与制度を創設しました。また、宮津市・伊根町とともに地域医療確保奨学金貸付制度を設け、平成30年度から令和３年度までに、医師志望者２人、看護師志望者25人に奨学金を貸与し、地域医療体制の維持に向けて支援を行いました。

福祉事業所数

74事業所

福祉事業所従事者数

924人

心のよりどころ

誰もが安心して暮らせるよう、地域での支え合いの力を活かし、支援を必要としている方の孤立化を防ぐ取り組みを実施しました。身近な相談相手である民生児童委員の活動支援をはじめ、子育て支援センターや児童家庭相談室（クローバールーム）での専門家による各種相談、町内11ヵ所での認知症カフェ、精神障害者の居場所づくりなど、心のよりどころの充実を図りました。

民生児童委員数

67人

健康寿命

京都府民の健康寿命は、男性71.85歳、女性73.97歳です。平均寿命は全国平均を上回っていますが、健康に生活できる期間である健康寿命は全国平均と比べ短くなっています。与謝野町では、健康寿命を延ばすため、健康相談や健康教室を実施しているほか、自ら健康状態を把握でき、病気の早期発見・早期治療につなげられるよう合併当初から特定健診とがん検診（肺・胃・大腸・乳・子宮・前立腺）を同時に無料で受診できる制度を設け、さらに社会保険被扶養者も町の特定健診とがん検診を受診できる体制を整えています。特定健診で把握した特定保健指導対象者への指導を積極的に実施した結果、メタボリックシンドローム該当者が年々減少しています。

特定健診受診率

41.2％

がん検診受診率（平均）

39.6％

みらい会議開催決定!!

まちのみらいを語り合うタウンミーティング「よさのみらい会議」を開催します。全３回の詳細は、６月24日発行の「広報よさのお知らせ版」でお知らせします。

第１回 **7/24**　第２回 **8/28**　第３回 **9/25**

第４日曜に知遊館でまちのみらいを話しましょう！

シリーズ みんなでつくる総合計画 vol.2

続・数字とキーワードで見る まちづくりの現在地。

前月号に引き続き第２次総合計画・前期基本計画の残り４分野について数字とキーワードで振り返ります。

出産と子育て

｜分野４｜つながりで笑顔を未来につむぐまち

期間合計特殊出生率(R3)

1.26

年間出生数(R3)

91人

切れ目のない支援

平成30年の計画開始時から微減傾向で推移している期間合計特殊出生率・出生数に歯止めをかけるべく、子育て応援課に「子育て世代包括支援センター」を設置し、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援体制を構築。産後６ヵ月までの母子を対象とした「産後リフレッシュ事業」は、産婦の半数以上が利用し100%の満足度が得られました。また、各家庭に合った出産・子育てプランを両親と保健師と一緒に作成したほか、妊娠中・子育てに使えるグッズや名前入りの器をプレゼントする「ハローベビープロジェクト事業」を実施。さらに、令和２年度からは府内初の取り組みとして、特定不妊治療交通費助成事業も開始するなど、安心して子どもを生み育てることのできる環境づくりを行いました。

子育てサービス充実

同一施設での教育・保育が受けられる認定こども園として、平成31年度に、のだがわこども園・かやこども園、令和３年度には、桑飼保育園とかやこども園を統合したつばきこども園を開園。また、早朝の時間外保育の拡充や病児保育を新たに実施したほか、０歳児の受け入れを２ヵ月から行う民間の小規模保育園開園への支援、町内６ヵ所での学童保育事業等により、多様なニーズに応えた結果、令和２年度の調査では「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」は94.9%となりました。

この地域で子育てしたい親の割合

94.9%

地域ぐるみで育む

行政の子育て支援サービスとは別の発想で、地域等が主体となって、子どもの居場所・遊び場・交流の場づくりを行う「キッズステーション事業」を令和２年度から開始しました。３つの団体が、出入り自由な学童保育や英会話教室、地域の自然を利用した活動など、創意工夫を凝らした取り組みを展開。２年間で延べ１０００人を超える子どもたちが利用し、希薄化しつつある異年齢交流や集団活動が創出される機会となりました。また、この取り組みにより、地域ぐるみで子育てする意識を高めるとともに、保護者にとっても安心して利用できる新たな子どもの居場所を提供できました。

キッズステーション延べ利用者数

1,000人

教育と文化

｜分野５｜魅力ある教育が活力ある人や地域を創るまち

小学校数・児童数(R4.3.1)

6校**917**人

&

中学校数・生徒数（R4.3.1）

3校**504**人

※橋立中は町民のみ

適正規模・適正配置

平成28年５月に策定した「学校等の適正規模適正配置に関する基本方針【改訂版】」では、令和３年度の児童数を942人と推計しており、想定より少子化が進んでいます。こういった状況の中、加悦地域の３小学校については、同方針で掲げた統合年度から１年を前倒して再編を行い、令和２年４月に新たな加悦小学校を配置しました。令和３年度に同校で実施したアンケート調査においては、86%の児童と93%の保護者から「再編して良かった」または「どちらかといえば良かった」と肯定的な回答が得られました。また、心身ともに健やかな子どもの育成を図る観点から、いじめ実態調査や学級満足度調査、人権アンケートを実施し、児童生徒の実態把握に努め、安心して過ごせる居心地のよい学級づくり、学校づくりを進めるとともに、特別支援教育を一層充実させ、発達の程度や適応の状況に応じた支援や指導を行いました。

ふるさとへの愛着

小中学校においては、「総合的な学習時間」を中心に、多彩なテーマでふるさとを教材にした課題解決学習に取り組んでおり、全国学力学習状況調査の地域行事の参加に係るアンケートでは、小学校では88%（全国58%）、中学校では85%（全国44%）の児童生徒から、肯定的な回答が得られました。また、宮津天橋高校加悦谷学舎がより魅力ある高校となるため、学校と行政が連携し、高校魅力化推進事業を実施しました。令和元年度からは魅力化コーディネーターを配置し、探究学習やキャリア教育等を通じ生徒の地域理解を深めました。これらの取り組みにより、アンケート結果では７割以上の生徒が「郷土への愛着を感じている」と回答するなど、郷土愛の醸成を図ることができました。

地域の行事に参加している児童・生徒の割合

小学校 **88**% 中学校 **85**%

生涯学習講座・公民館講座等開催回数(R3)

274回/年

生涯学習の担い手育成

与謝野町公民館連絡協議会の設立によって、公民館が主体となった公民館活動の推進体制が構築されました。協議会主催による研修会では、生涯学習を推進する人材を育成。公民館活動は、知遊館・中央公民館・加悦地域公民館では全町・地域単位、地区公民館では地区単位を主な対象としてさまざまなテーマで実施されました。町の自然や特有の文化に親しむ機会づくりを行ったことにより、受講者の郷土への愛着を深めたほか、講座を通じて受講者を中心としたサークルも立ち上がるなど活発に展開されています。

自然環境と生活環境

｜分野６｜美しくて住みやすい安心安全なまち

脱炭素社会

温室効果ガス削減目標

40%以上削減【2013年度 → 2030年度】

与謝野町は、平成30年度に「世界首長誓約／日本」誓約書に署名し、21世紀後半に世界の温室効果ガス排出量実質ゼロをめざす「パリ協定」の目標達成に貢献することを宣言。令和元年度には「2050年二酸化炭素実質ゼロ」を宣言し、再生可能エネルギーの利活用や地産地消の取り組みを積極的に進めていくことを表明しました。これらの内容を盛り込んだ「第2次与謝野町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を令和２年度に策定し、公共施設の温室効果ガスの更なる削減に向けた取り組みを進めた結果、令和２年度の進捗状況では、目標の３倍以上の削減を達成できました。また、よさの百年の暮らし委員会（みらいふ）と連携し、広報啓発に努めました。

移動手段確保

丹海バスに補助金を交付し、200円バスなどの利用促進事業に取り組むとともに、丹海バスが運行されていない地区住民の交通手段を確保するため、町営バスを運行。令和２年10月からは、岩屋線を新設し交通サービスを拡充しました。また、今後の急速に進む高齢化社会を見据え、より移動しやすい交通体系を模索するため、令和４年２月には「乗合タクシー」の実証実験を実施。延べ550人以上の利用実績があり、新たな交通体系の導入に向けて議論が始められています。

公共交通空白地区

0地区

空き家対策

平成30年度に策定した「空き家等対策計画」に基づき、廃屋化した空き家所有者への適正管理の依頼と、固定資産税の納税通知書に啓発文書を同封するなど広報を強化した結果、過去3年間で30件以上の対応につなげられました。一方、有効活用に向け、空き家バンクの情報を府北部Ｕターンプロジェクト「たんたんターン」で発信。さらに、空き家活用講座や、移住希望者と空き家のマッチングを行うなどの取り組みを行ったことにより、平成30年度から令和３年度までの４年間で19件の空き家活用が図られました。

空き家活用件数

19件

地域協働と行財政運営

｜分野７｜住民が主人公となるまち

協働のまちづくり

令和２年度から、地域の課題解決に取り組んでいくための持続可能な仕組みや、地域と行政との協働のあり方など、地域の将来像を地域で考える「協働のまちづくり調査事業」を金屋区・三河内区・岩屋区・四辻区で開始しました。年代や性別、肩書きにとらわれず多様な主体が参画して、意見やアイデア等が共有されており、協働のまちづくりに向けて動き出しています。また、これまでは施策や方針決定過程等の場への参画の少なかった女性について、町審議会委員等へ積極的に登用するなど、まちづくりへの参画機会の拡充を図りました。

調査事業実施地区

4地区

審議会等への女性の登用率（R3）

28.3%

効率的・効果的な行政サービス

平成29年度に策定した「公共施設等総合管理計画（実施計画）」に基づき、加悦地域の小学校と保育園の統廃合などを進めました。令和３年度からは、本庁舎・加悦庁舎の夜間警備化、土日祝日の３庁舎日直業務（日中）を野田川庁舎に一本化したことで、約870万円の経費が削減できました。また、コンビニ収納ができる税と料金等については、同年５月からスマートフォン決済アプリによる納付ができるようになりました。さらに、町税の滞納整理を積極的に進めた結果、年々滞納額は減少しており、ピーク時（平成21年）に1億8,000万円あった滞納繰越金額は、令和３年度には約5,200万円まで減少しました。

町税滞納繰越金額

71.7% 減少

よさのみらい大学

平成29年度に開校した「よさのみらい大学」には、これまで延べ２０００人以上が参加しています。「川の自然再生」をテーマにした講座を通して自発的に川づくりに取り組む人々が現れたほか、「ご当地弁当づくり」をテーマにした講座の受講者が中心となって、地元食材を使った弁当の商品化を実現するなど、地域人財の育成につながっています。

よさのみらい大学延べ参加者数

2,000人

総合計画審議会

【任期】6月7日～令和7年3月31日

会　長　谷口　知弘
副会長　佐賀　義之
委　員　辻村　謙一
〃　木村　順一
〃　糸井　恵美
〃　関野　宅矢
〃　塩野　浩士
〃　太田　豊
〃　安達　幸三
〃　濱田　祐太
〃　中田麻由美
〃　杉本　弘治
〃　植田友香理
〃　森垣　和哉
〃　樋口　潔
〃　川邊　真
〃　細井　昭男
〃　井上　豊
〃　長谷川　達
〃　高岡　知子
〃　井上　重子
〃　市川　孝雄
〃　茂龍　美夫

※敬称略・順不同

＼ 新体制スタート！ ／

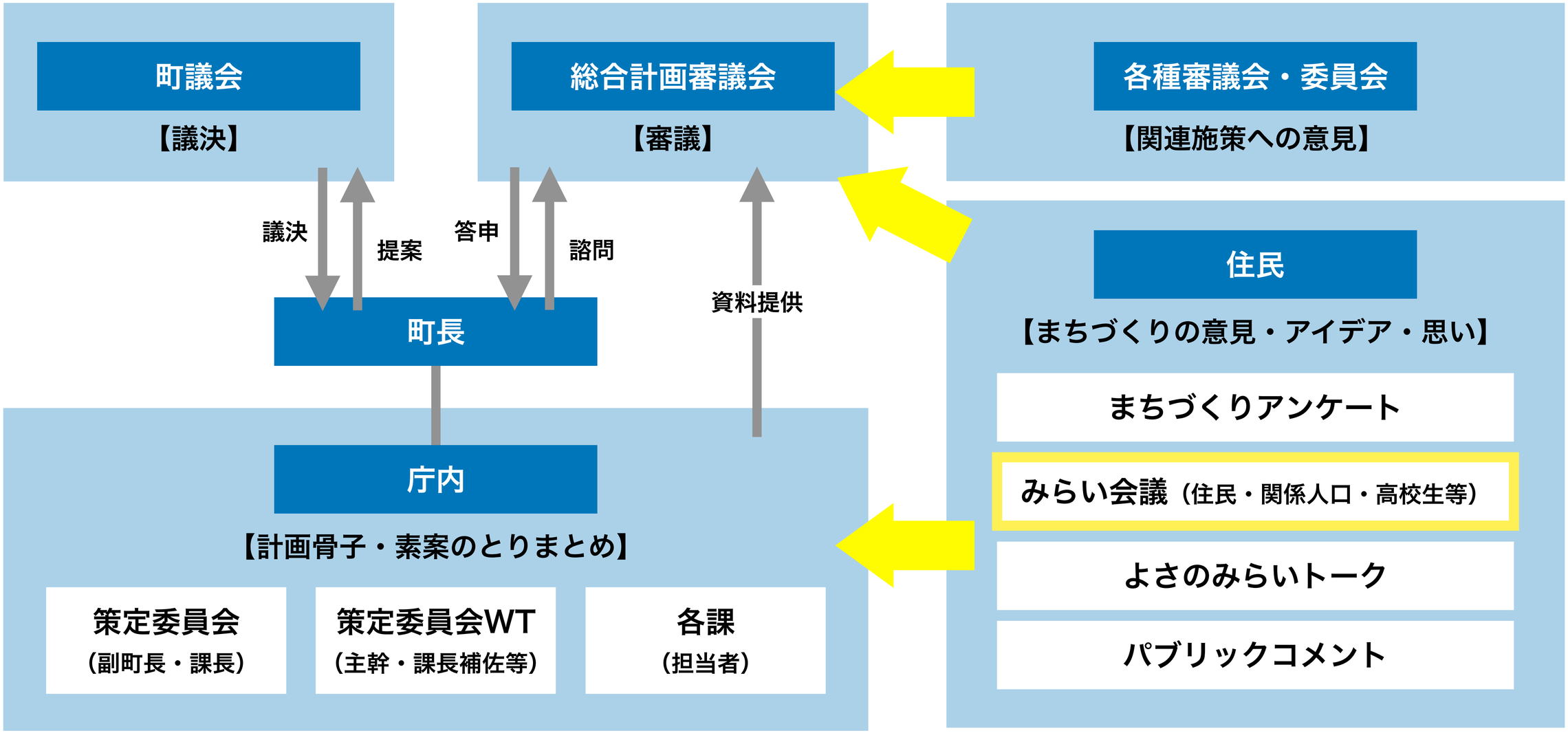
6月7日、岩滝保健センターにおいて、第1回与謝野町総合計画審議会を開催しました。

本審議会は、総合計画の策定や推進に関して審議を行う機関で、今期で第6期目となります。

会議では、会長に福知山公立大学教授の谷口知弘氏、副会長に区長連絡協議会会長の佐賀義之氏を選出。後期基本計画の答申に向けて今年度の役割を確認した後、まちの魅力を語り合うワークショップにより委員間で対話を深めました。

4-(2). よさのみらい会議について

計画の策定体制


町議会
【議決】
総合計画審議会
【審議】
各種審議会・委員会
【関連施策への意見】
議決
提案
答申
諮問
資料提供
町長
住民
【まちづくりの意見・アイデア・思い】
まちづくりアンケート
みらい会議（住民・関係人口・高校生等）
よさのみらいトーク
パブリックコメント
庁内
【計画骨子・素案のとりまとめ】
策定委員会
（副町長・課長）
策定委員会WT
（主幹・課長補佐等）
各課
（担当者）

問題意識

行政の視点

（計画策定時と比較すると）実践の段階では
住民参画が得られていない。

住民の視点

話は大事。まとめることも大事。
実践していくことがもっと大事。

よさのみらい会議のねらい

実践者を育て、実践者がつながり、住民発の取り組みが動き始めるきっかけの場に（計画の自分ごと化）

▼

そのためには“参加のデザイン”が必要

（谷口先生）

対話のコンセプト

- 未来を考える
- 幸せを考える
- 自分ごとにする

よさのみらい会議（公募型）開催要項

7/24 sun

知遊館 あじさいホール

構　成　二部構成
- 10:00-12:00
- 14:00-16:00

テーマ　私の幸せ、まちの幸せ

参加者　目標30名/回
- まちづくりに関心が高い人たち（まちづくり団体）
- 若者世代

8/28 sun

知遊館 あじさいホール

構　成　二部構成
- 10:00-12:00
- 14:00-16:00

テーマ　子育て・教育

参加者　目標30名/回
- 子育て世代
- 子育て関連団体

9/25 sun

知遊館 あじさいホール

構　成　二部構成
- 10:00-12:00
- 14:00-16:00

テーマ　仕事・交流・つながり

参加者　目標30名/回
- 若手経営者
- 関係人口
- まちづくり団体

＼ Point ／
- 総合計画審議会委員が主体的に関わる（所属団体等においてみらい会議への参加を呼びかける）
- 保育ルームを設置し子育て世代の参加を促す
- ワークショップ形式で対話を促す（ファシリテーター：谷口先生、辻村先生、町職員）

よさのみらい会議（お出かけ型）開催候補

- 宮津天橋高校加悦谷学舎
- 社会福祉協議会
- よさの100年暮らし委員
- 子ども子育て会議
- 商工会青年部
- 産業振興会議
- 青年農業者の会
- 移住・定住アンバサダー

etc..

ワークショップの進め方

1. まちの現状を知る【インプット】 (20分)
2. みんなで対話する【ワークショップ】 (70分)
3. 対話した内容を心に留める【チェックアウト】 (10分)
4. グループ発表【アウトプット】 (10分)
5. 先生の講評【振り返り】 (10分)

よさのみらい会議ワークシート（各回共通分）

わたしの幸せ

2022年、暮らしの中で
どんな幸せを感じていますか

2040年、どんな幸せを
感じていると思いますか

まちの幸せ

幸せに暮らせるまちとは
どんなまちでしょうか

まちの幸せを実現するには

わたしには何ができますか

誰に協力してもらいたいですか

どんな役場であったらよいですか

計画づくりの過程で心がけたいこと

計画づくりの過程は

学び合い（相互学習）と育て合い（共育）

計画づくりの究極の目標は

「人間の成長」（内発的発展論）

学び合い、育て合う「話し合い」大切にしたい３つのコト

❶挨拶（チェクイン）からはじめよう

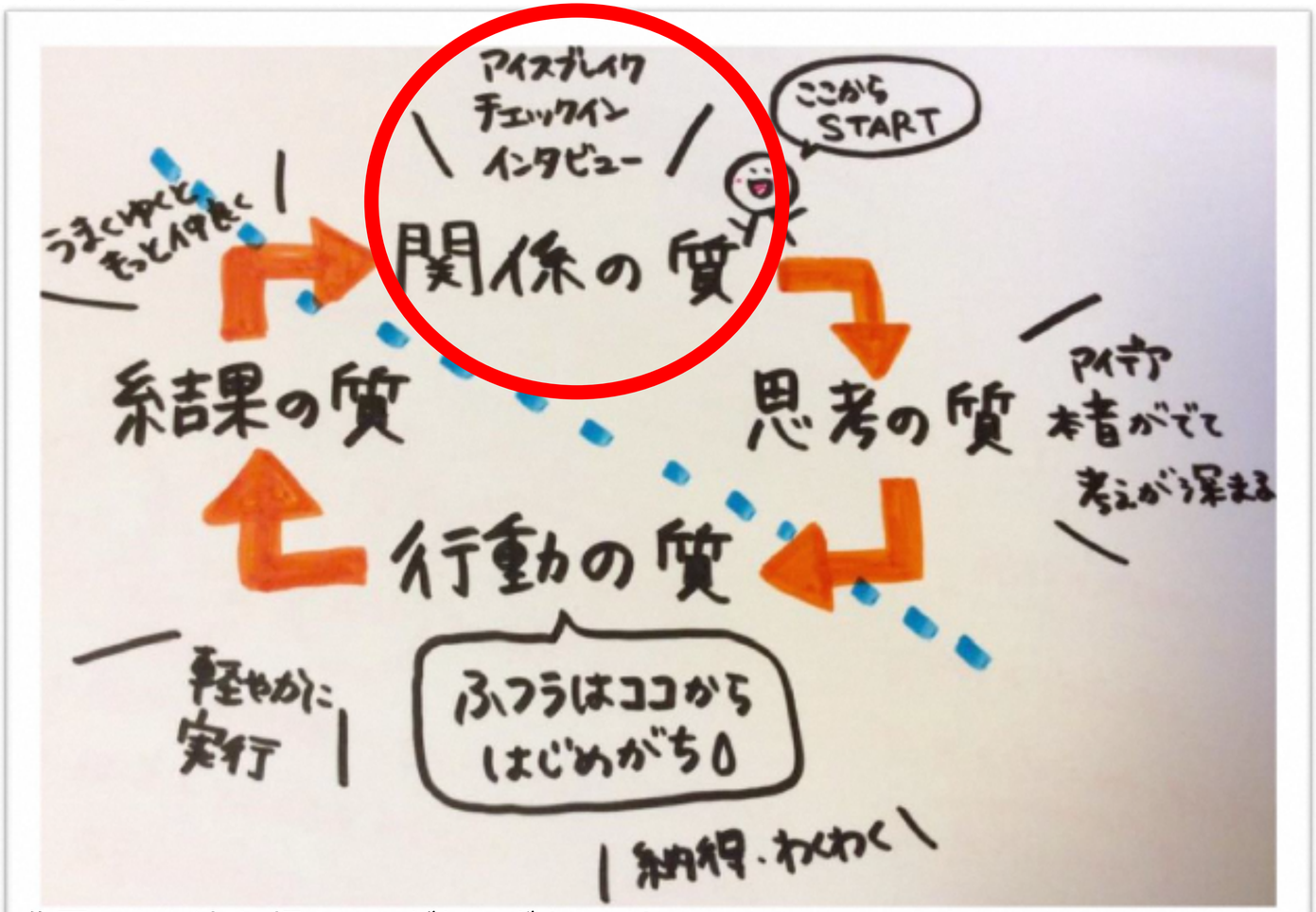
❷話し合いを見える化しよう

❸話し合いから豊かな関係を育てよう

→実践につながる「参加のデザイン」

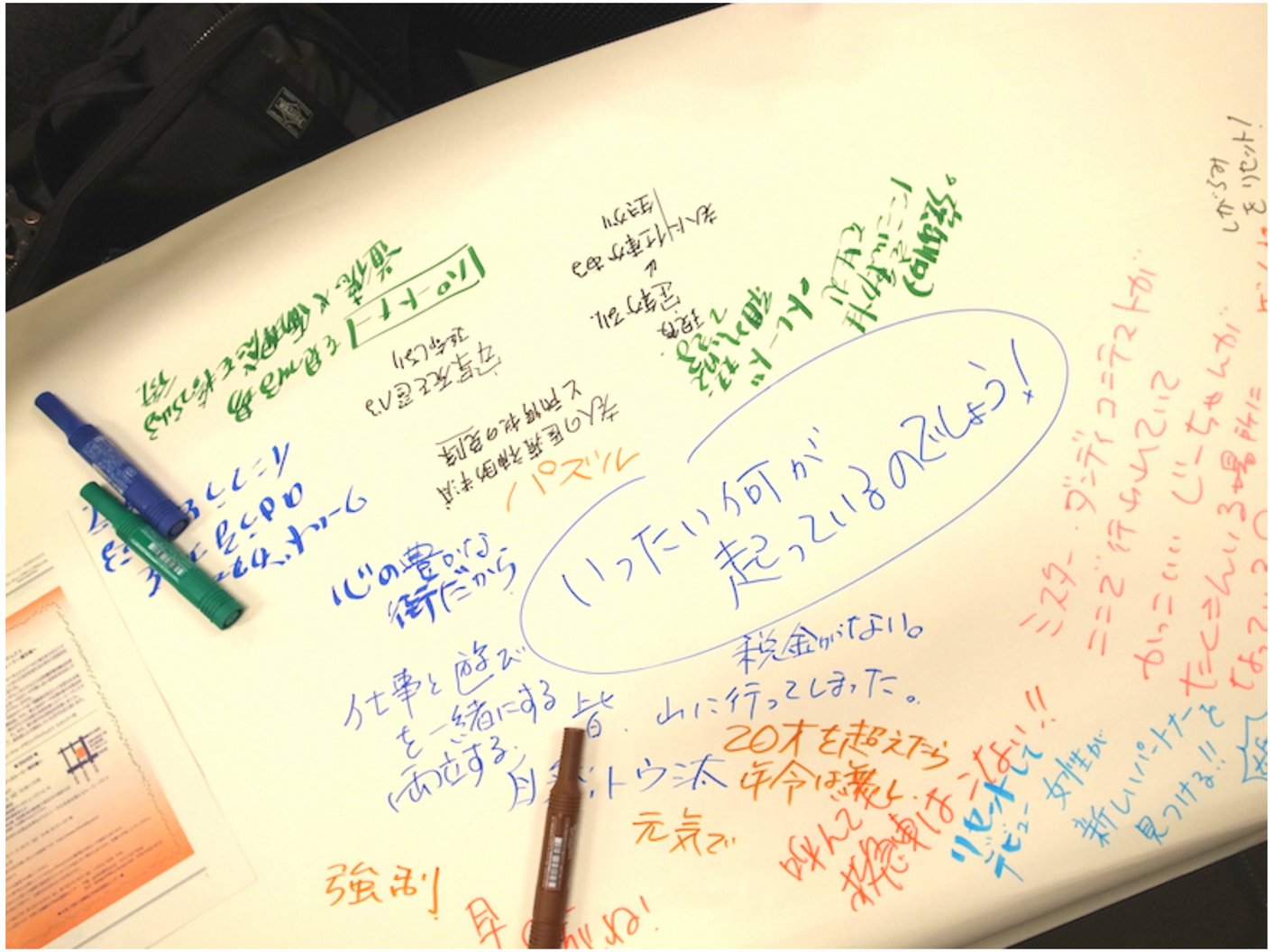
❶挨拶（チェックイン）からはじめよう

成功循環モデル ［MIT ダニエル・キム］



作図：NPO法人 場とつながりラボ home’vi

❷話し合いを見える化しよう



❸話し合いから豊かな関係を育てよう→参加のデザイン

1）知り合い、学びあう
（出会い・語らい・相互学習）

2）価値観の違いを認識する
（相互理解）

3）信頼関係を作り出す
（ｺﾐｭﾆﾃｨの活性化・形成）

↓

ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）
コミュニティなり組織の**豊かな人間関係**や信頼、ネットワーク

計画づくりから実践につながる「参加のデザイン」

協働の過程（話し合いや共同作業）

≒

相互学習の過程（学び合う。育て合う）

学び合う

↓

つながる

↓

実践する

ソーシャル・キャピタル
社会関係資本（豊かな人間関係）

↓

自立的・継続的な問題解決

↓

持続可能な地域社会

計画づくりから実践につながる「参加のデザイン」

- 様々な関係者を幅広く集める。
  テーマに関連した関係者を集める。
  ＜実践につながる未来の関係者は誰だろう？＞

- 話し合いを通じて新たなアイデアや問題の解決手段を見つけ出す。

- 相互協力して実践する。

計画づくり

みんなの知恵を集めよう

豊かな関係をつくろう

「話し合い」から未来をつくろう

コミュニケーションが勝利を呼び込む
（カーリング女子日本代表の言葉より）

5. ワークショップ

ワークショップの進め方

1. 自己紹介【チェックイン】（20:50-21:00）
2. 個人で考える（-21:05）
3. グループで共有する。新たな気づきを得る（-21:15）
4. もう一度個人で考える（-21:20）
5. グループで共有する（-21:30）

本日のテーマ

わたしと
まちづくり

まちづくりとは

まちづくりとはどのような活動ですか

まちづくりには誰が関わっていますか

興味のあること

これまで取り組んできた活動はありますか

関わってみたい活動はありますか

注目している（応援している）
活動はありますか

参加のデザイン【みらい会議編】

どんな人に参加してほしいですか

どうやったらその人に参加してもらえますか

“つながり”や“ワクワク感”を生み出すための
アイデアはありますか

まちづくりの定義

まちづくりとは、
地域社会に存在する資源を基礎として、
多様な主体が連携・協力して、
身近な居住環境を漸進的に改善し、
まちの活力と魅力を高め、
「生活の質向上」を実現するための
一連の持続的な活動

（佐藤滋，日本建築学会編「まちづくりの方法」，丸善出版，2004年）

まちづくりの定義

地域に住んでいる人たちが
中心となって、当事者として、
自分たちの住む地域にかかわる問題に
関して行っている活動

（西村幸夫，「まちづくり学」，朝倉書店，2007年）

まちづくりの定義

空間づくり、環境づくり、
ルールづくり、イベントづくり、
生業づくり、ひとづくり

（中林一樹 , 羽貝正美編「自治と参加・協働」, 学芸出版 , 2007年）

まちづくりの定義

新しい公共

一人ひとりの暮しの中には、「私」だけの問題からみんなの問題へと、
「公共」の領域へ拡がっていくものがあります。
そのような問題を、私たちは長い間、行政だけに委ねてきました。
（中略）
行政により担われていた「公共」に、市民や市民団体、そして事業者も参加する時代が来ています。
「私」を大切にするために様々な選択肢があることが普通のことになってきました。
このように、多様な価値観に基づいて創出され、共に担う「公共」を、
私たちは「新しい公共」と呼びます。

（神奈川県大和市，「新しい公共を創造する市民活動推進条例」，2002年）

6. 次回審議会について

スケジュール

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
庁内 ・策定委 ・WT	・前期計画評価検証		・後期計画骨子案検討、重点戦略検討 ・成果指標（施策別）設定 ・住民アンケート				後期計画素案・最終案検討		後期計画最終案作成		
総合計画審議会		● 第4回 ・評価検証 ・アンケート	● 第5回 ・評価検証 ・第5期最終会議		● 第1回 ・第６期発足	● 第2回 ・前期計画の振り返り ・タウンMTG	● 第3回 ・骨子案 ・重点戦略 ・アンケート結果	● 第4回 ・素案	● 第5回 ・最終案		● 第6回 ・答申
住民参画					アンケート ・無作為抽出 2,000人	タウンミーティング ・みらい会議（分野別・全6回） ・よさのみらいトーク（随時）			意見募集		
議会等		● 3月定例会	● 町長町議選	● 5月臨時会 ・条例改正	● 6月定例会 ・新町長施政方針、肉付け予算			● 9月定例会			● 12月定例会 ・提案、審議
広報					広報よさの（総合計画連載）・KYT（番組内コーナー/不定期）						

第３回与謝野町総合計画審議会日程

候補日

【A案】8月9日（火）午後7時30分～
岩滝保健センター

【B案】8月18日（木）午後7時30分～
岩滝保健センター

議題予定

まちづくりアンケート、重点戦略、骨子

第２回与謝野町総合計画審議会　ワークシート

A 班

まちづくりとは

まちづくりとはどのような活動ですか

- 子育て
- 人作り
- 自立して老後を送りたい
- 自分が楽むボランテア
- いきいき生きる
- めいわくをかけない
- 前向きな町民を増やす＝人づくり
- 地元企業が稼ぐ＝雇用／賃金UP
- U・Iターンの促進＝暮らし／コミュニティー

まちづくりには誰が関わっていますか

- 多世代が集う祭りの組織
- 企業経営者・個人事業主

興味のあること

これまで取り組んできた活動はありますか

- 消防団
- ボランティア活動
- 育成会
- 祭り→実支会
- 石仏さがし
- 青年部
- 会社経営
- 地域青年組織の結成
- 移住アンバサダー
- 山を元気に

関わってみたい活動はありますか

- 桜プロジェクト

注目している（応援している）活動はありますか

- 代替肉→大豆の活用？
- 若者支援 by 小・中でつまずいた高校生など
- 自て肯定感のUP

参加のデザイン【みらい会議編】

どんな人に参加してほしいですか

- 高校生
- 中学生
- 意見の様に通う大学生
- 子育て世代
- 独身者
- 移住者（最近、来た人）
- 村の三国の森の会の若手

どうやったらその人に参加してもらえますか

- ゲーム的
- オンライン

“つながり”や“ワクワク感”を生み出すためのアイデアはありますか

- 気楽に話し合える場所
- 新しい出会いがある
- ビールをのむ
- 肩書きを言わない
- ふくめん

第２回与謝野町総合計画審議会　ワークシート

B 班

まちづくりとは

まちづくりとはどのような活動ですか

- 地域創生
- 多様性 いろんな人でなりたつ
- 未来づくり
- 住民参加
- 百年先にも残るもの
- つみ重ね
- 地域愛
- 育てること成長すること
- まつり

まちづくりには誰が関わっていますか

- 人
- 子ども
- 大人
- 視野の広い人
- 地域愛強い人
- 地いきの役員
- 与謝野町に関心のある人
- 行政と民間との協定
- 行政職員仕事でして

興味のあること

これまで取り組んできた活動はありますか

- 子育て支援
- 宮津ウォーターフロント構想
- 加悦谷祭り
- 林道ボランの整備
- 環境問題
- 商工会での活動

関わってみたい活動はありますか

- 商品開発
- 阿蘇ハイの開発
- 他の地域ではできない商業
- 山の整備の体制作り
- あそ海 あそびに楽しいこと

注目している（応援している）活動はありますか

- シオノ
- シルク産業

参加のデザイン【みらい会議編】

どんな人に参加してほしいですか

- 何かやりたいことがある人
- やりたい人と探してる人をつなぐ人
- 行動力のある人
- 学生若い人
- いろいろ知ってる人 れきしとかいわれとか
- やりたいことを探してる人
- 今から働く世代 ※どうすれば地元にUIターンとするか？

どうやったらその人に参加してもらえますか

- よびかけ声かけ
- おもしろそうやで!! 楽しそうやで やりたい事が実現
- やってほしい事を言えるで 実現するで!!
- いろんな人がしゃべれる（1人の人がしゃべりすぎてない）
- むずかしくない人
- 青空教室 出張教室

“つながり”や“ワクワク感”を生み出すためのアイデアはありますか

- 成功事例を提示する

第２回与謝野町総合計画審議会　ワークシート

C 班

まちづくりとは

まちづくりとはどのような活動

- 多くの人たちとかかわっていく！
- 住みたいと思うことが大切！
- 寄ず関心を持ってもらう 例 選挙に行く
- 消防団でもスポーツでも参加してもらう
- 目的意識を共有する
- 選挙
- 行事等に参加して人とのつながりの輪を広げる
- コミニュケーションを取り扱いシステムの幽考く
- コミニケーション作り
- 地域貢献 コミュニケーション

まちづくりには誰が関わっていますか

- 消防団
- 飲み会
- 思ったことをちゃんと人に伝える
- 高2会 青年部
- 隣組
- 先輩が後輩を育てる
- あいさつ大事！
- 行事事

興味のあること

これまで取り組んできた活動はありますか

関わってみたい活動はありますか

- イベントのタイミングで誘う
- 高校生 町からダシン 高校から 〃

注目している（応援している）活動はありますか

参加のデザイン【みらい会議編】

どんな人に参加してほしいですか

- 若者
- 子育て世代
- 10代の若者 後継者(会社)
- 高校生

どうやったらその人に参加してもらえますか

- のましたる
- 言いたい事を言える
- わかりやすい会
- かたくるしくない！
- 会議の主旨
- 同世代で分ける

“つながり”や“ワクワク感”を生み出すためのアイデアはありますか

- 飲みニケーション

第２回与謝野町総合計画審議会　ワークシート

D 班

まちづくりとは

まちづくりとはどのような活動ですか

- 子ども・地元で暮らすことをすすめる。
- 若者が働きたい会社をつくる。
- 親と子供（大家族）仲よく
- 消防 防災 防犯
- まちなかなどの美化、環境整備
- 楽しく生きる！
- ひとづくり

まちづくりには誰が関わっていますか

- 自治会 住民 環境団体
- 町民全員
- 自分
- 消防団（自治消防）
- 地域企業
- 町長

興味のあること

これまで取り組んできた活動はありますか

- 消防団
- 人づくり スポーツ活動
- あいさつ運動（子どもへの声かけ 大人）
- 登山（大江山）
- ヒロシの部屋
- JC
- ないものねだりをしない。
- 昇給プレゼン
- 社員と本気でかかわる。

関わってみたい活動はありますか

- 林業活用事業

注目している（応援している）活動はありますか

- 耕作されていない農地利用（農業食育）
- 桜
- ビール

参加のデザイン【みらい会議編】

どんな人に参加してほしいですか

- 若者
- 女性
- 高校生
- 子供（たくさん）
- 経営者
- 移住者

どうやったらその人に参加してもらえますか

- 口込み
- この人どう人を引っぱってくる

“つながり”や“ワクワク感”を生み出すためのアイデアはありますか

- とりあえず多くの人と話しその中からアイデアが出る
- 共感をよぶつぶやき
- 飲みニケーション